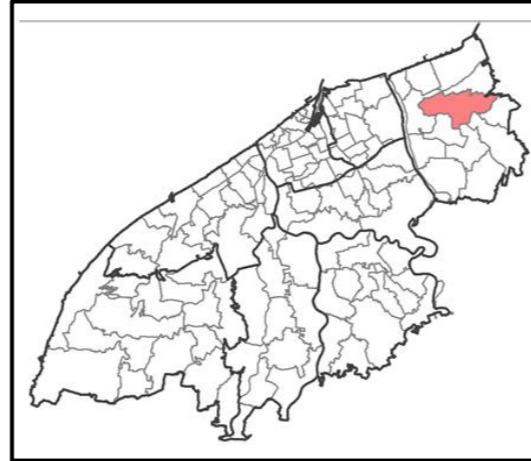


様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

内島見		
浦ノ入		
笠柳		
木崎		
下大谷内		
下早通		
樋ノ入		
鳥屋		
早通		
北陽1・2丁目		
横井		

●位置図

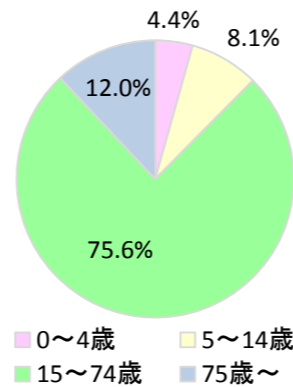


●施設・団体

市役所・区役所等	—
警察・消防	新潟北警察署
消防団	北方面隊 早通分団・木崎分団
水防倉庫	—
一時避難場所	やまどおり公園、見国山公園、おやま公園
広域避難場所	—
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・ 保育園 豊栄マリア幼稚園、ゆたか幼稚園／豊栄マリア保育園、木崎保育園、ほのぼの保育園 高齢者 福祉施設 スマイルホーム豊栄、尾山愛広苑 障がい者 福祉施設 就労センタードリームネクスト

●人口

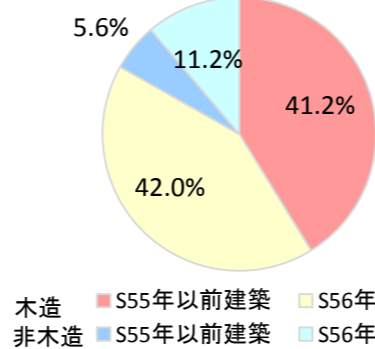
総人口	8,987人	地区の割合	市の割合
0～4歳	392人	4.4%	4.0%
5～14歳	726人	8.1%	8.5%
15～74歳	6,790人	75.6%	74.6%
75歳～	1,079人	12.0%	12.9%
65歳以上人口	2,328人	25.9%	26.0%
世帯数	3,110世帯		
一世帯あたり人口	2.9人／世帯		2.5人／世帯
人口密度	747人／km ²		1,108人／km ²
昼間人口	9,043人	夜間の100.6%	



●建物関連指標

総棟数	5,607棟	地区の割合	市の割合
木造			
S55年以前建築	2,310棟	41.2%	44.2%
S56年以降建築	2,354棟	42.0%	46.7%
計	4,664棟	83.2%	90.9%
非木造			
S55年以前建築	314棟	5.6%	3.4%
S56年以降建築	629棟	11.2%	5.7%
計	943棟	16.8%	9.1%
S56年以降建築物	2,983棟	53.2%	52.4%

S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震
※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]木崎小学校	2.6	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]木崎中学校	6.6	3	○	—	全階可	—
[ヒ]木崎コミュニティセンター	6.2	1	○	—	全階可	—
[ヒ]木崎保育園	7.7	1	○	—	全階可	—

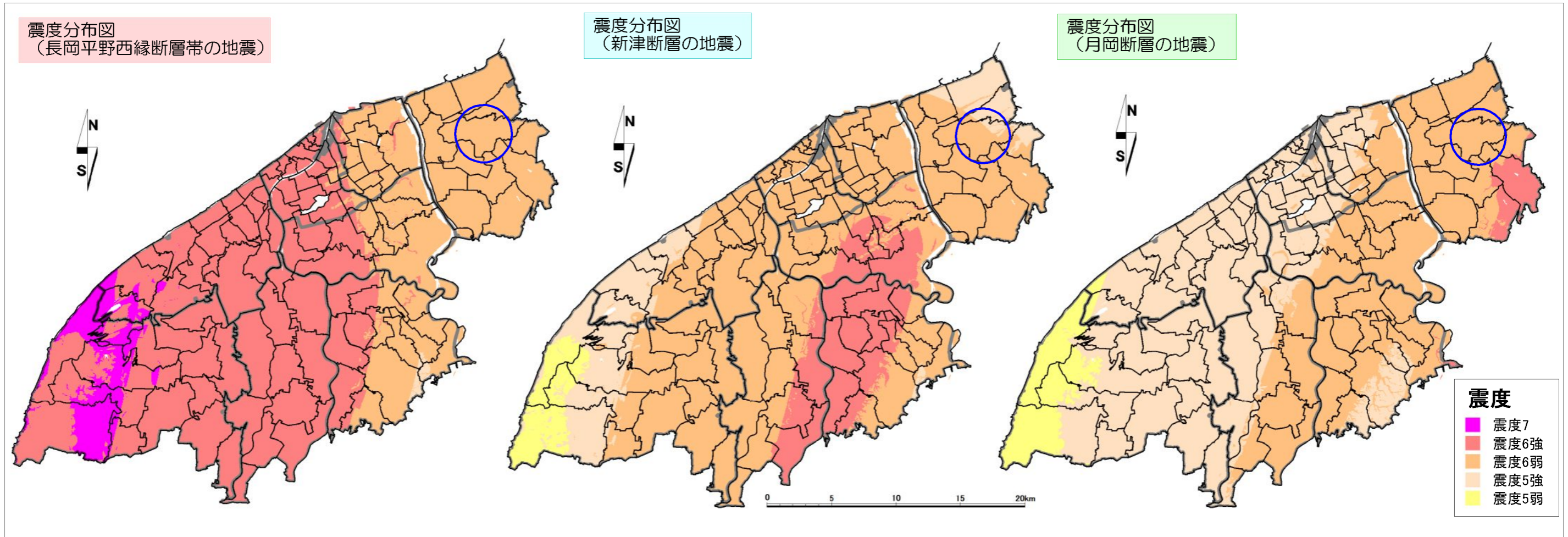
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]笹山小学校	5.8	3	○	—	全階可	—
[ヒ]太夫浜小学校	15.7	4	○	—	全階可	○
[ヒ]濁川中学校	2.2	4	○	—	全階可	—
[ヒ]早通コミュニティセンター	1.8	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]早通児童センター	1.6	1	○	—	×	—
[ヒ]早通南保育園	1.4	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]早通北保育園	1.1	1	○	—	×	—
[ヒ]早通南小学校	1.6	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]早通中学校	1.5	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]県立若草寮	2.3	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]すみれ保育園	1.6	1	○	—	×	—
[ヒ]葛塚東小学校	2.0	4	○	—	2階以上	—
[ヒ]葛塚中学校	2.0	4	○	—	2階以上	○

避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」・避難可能な階数、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

地震・津波	地区の大部分が軟らかい地盤上に分布するため、大きい地震の時には、強い揺れの可能性がある。また、地区北部から中央部にかけて、海岸線と平行(北東—南西)に数列の微高地が並んでおり、周辺に比べて液状化の可能性が低い。 津波による浸水は、東部及び西部の低地で想定されている。
水害・土砂	阿賀野川の洪水及び新井郷川・新発田川流域の洪水によって、低地で浸水する可能性がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

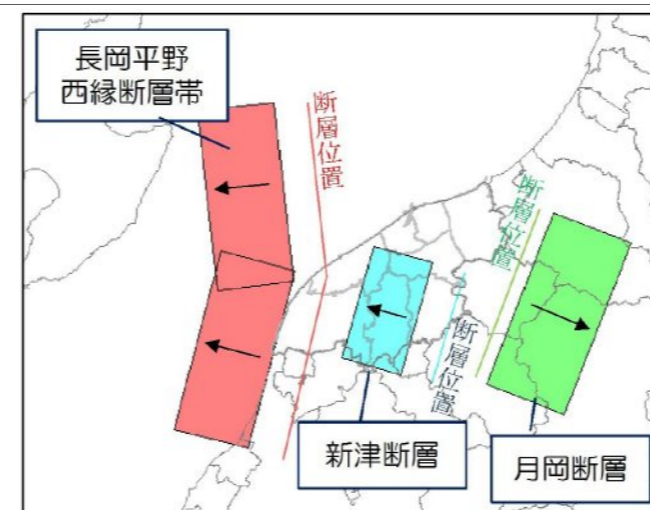
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

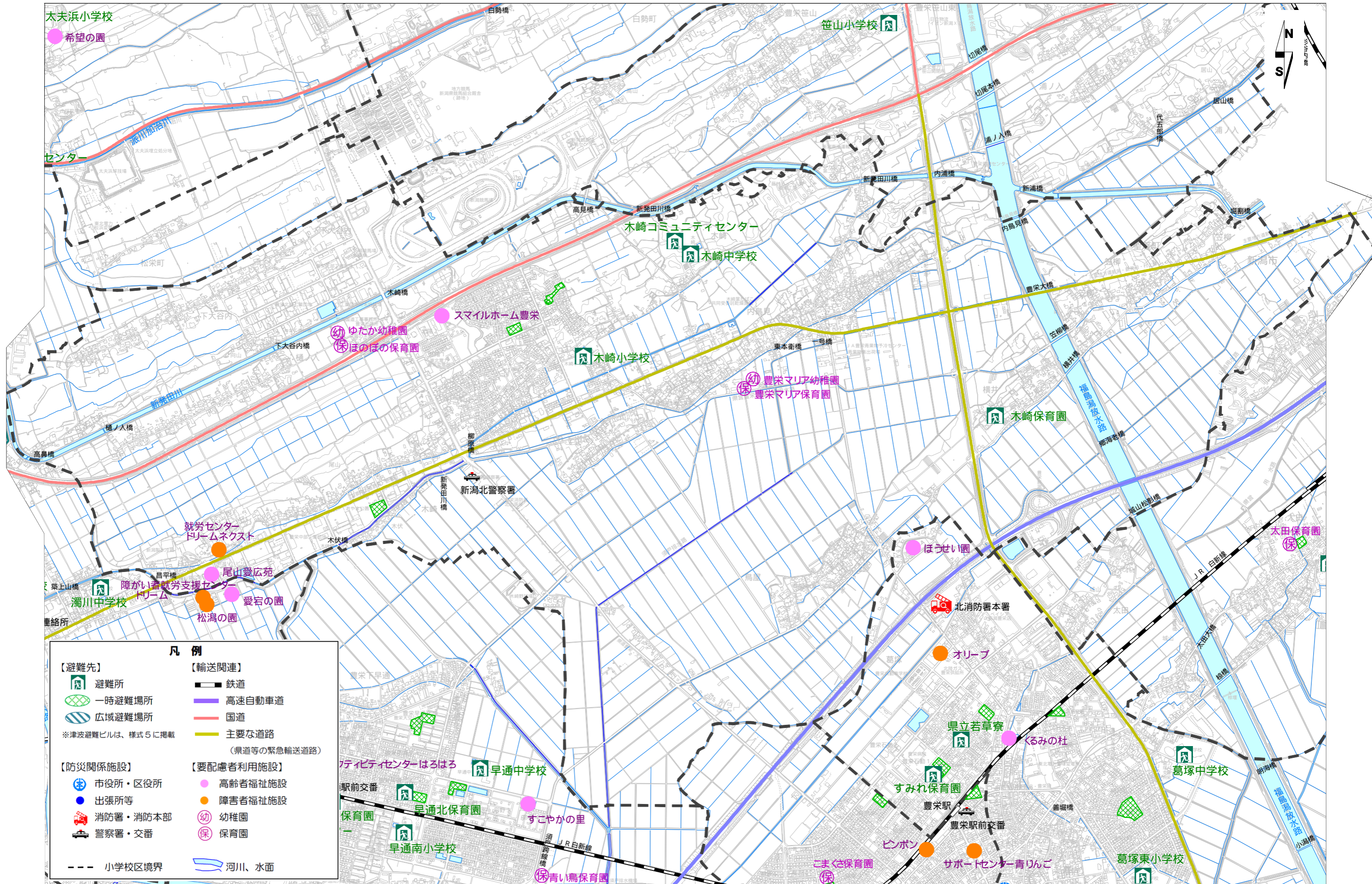
モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



← は、断層の傾きを示しています。

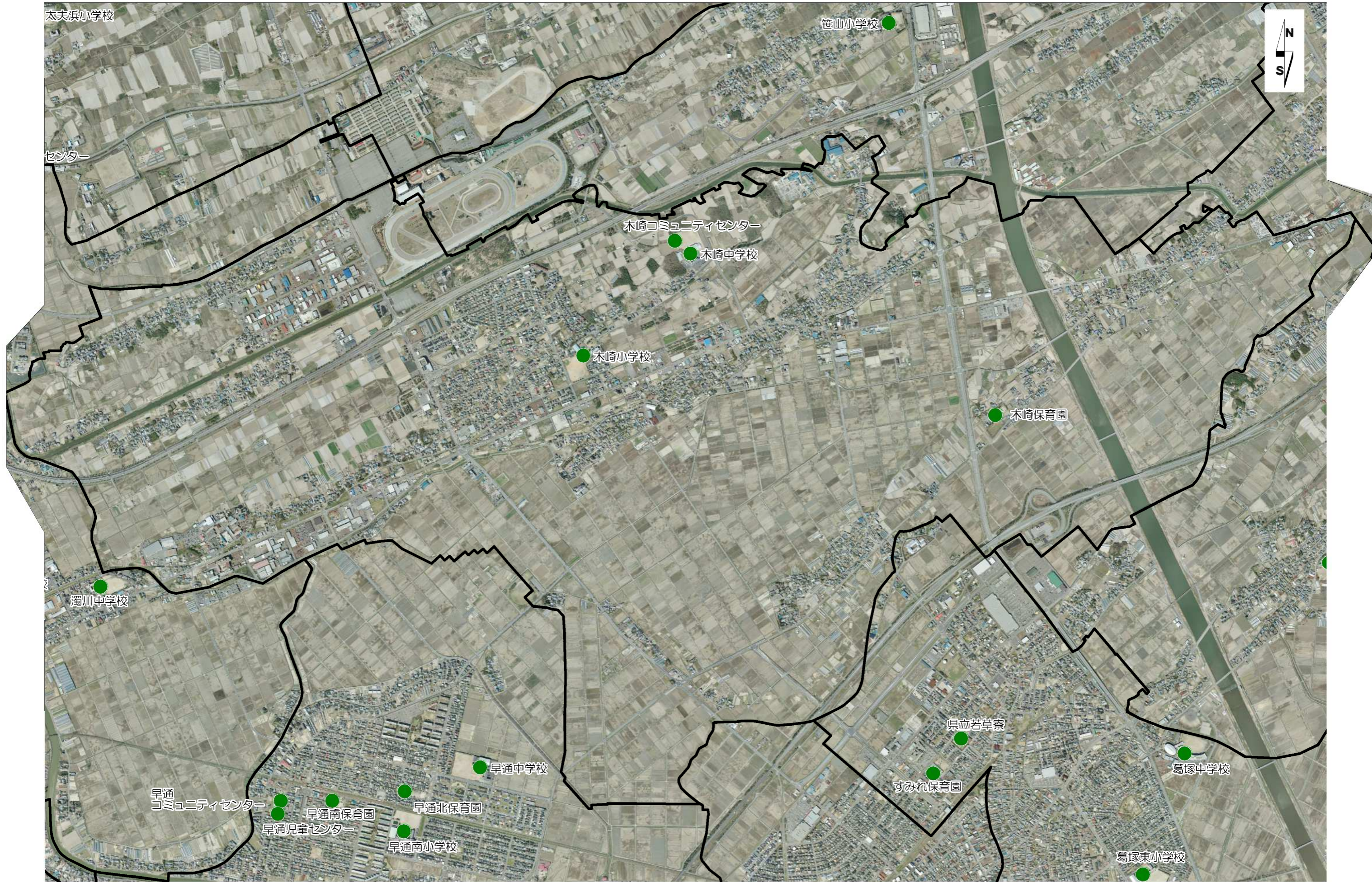
様式3 防災地図

木崎小学校区

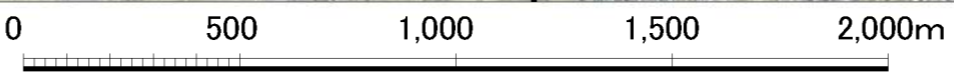


[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)

0 500 1,000 1,500 2,000m

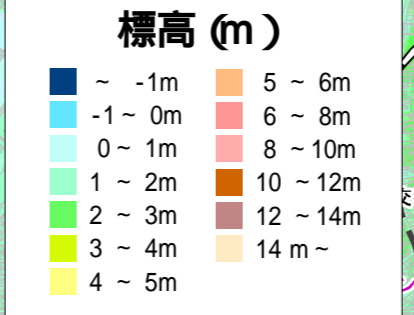
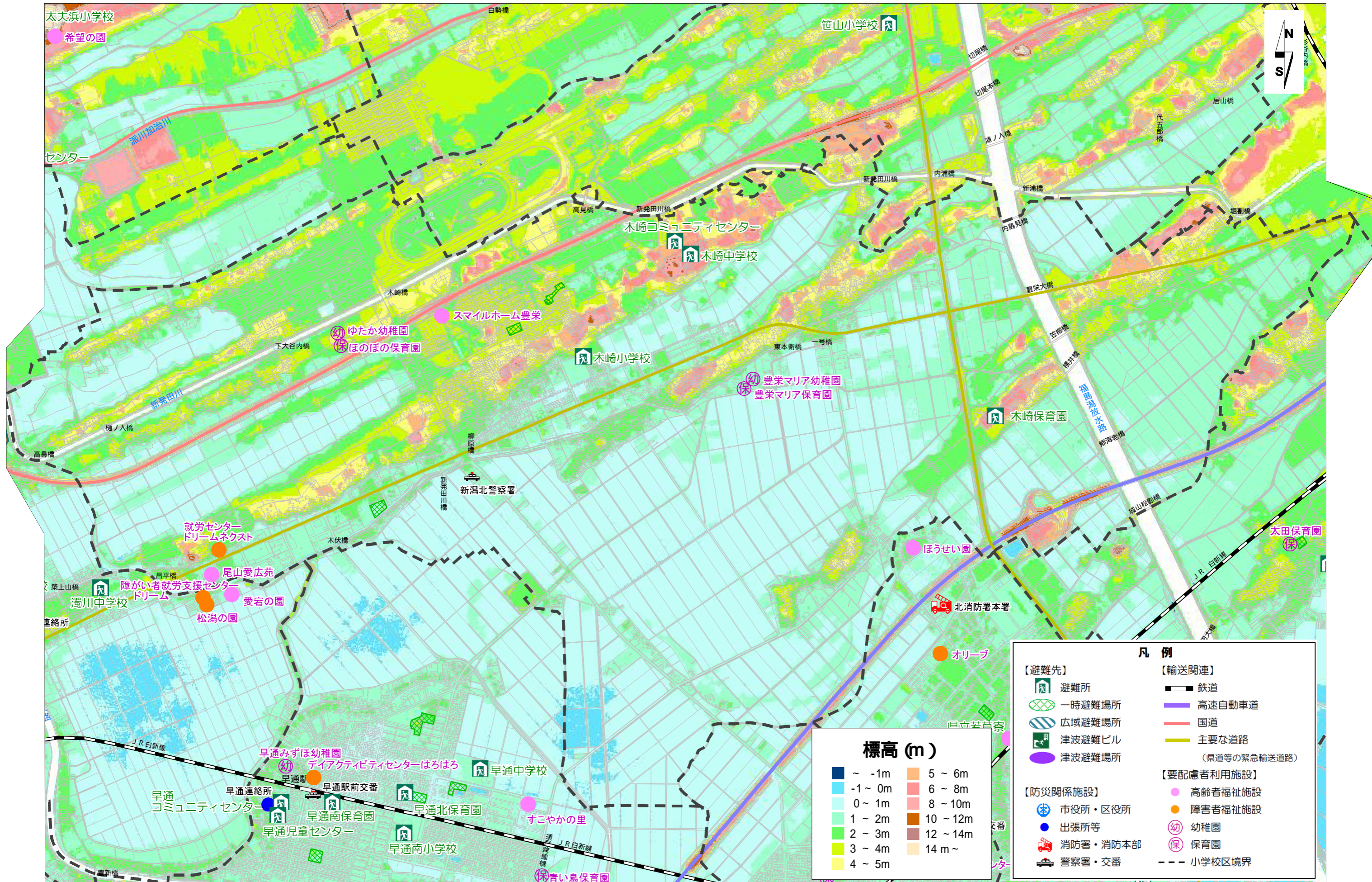


【出典】 航空写真(平成26年4月)



様式5 標高分布図

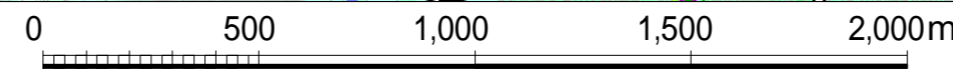
木崎小学校区



凡例

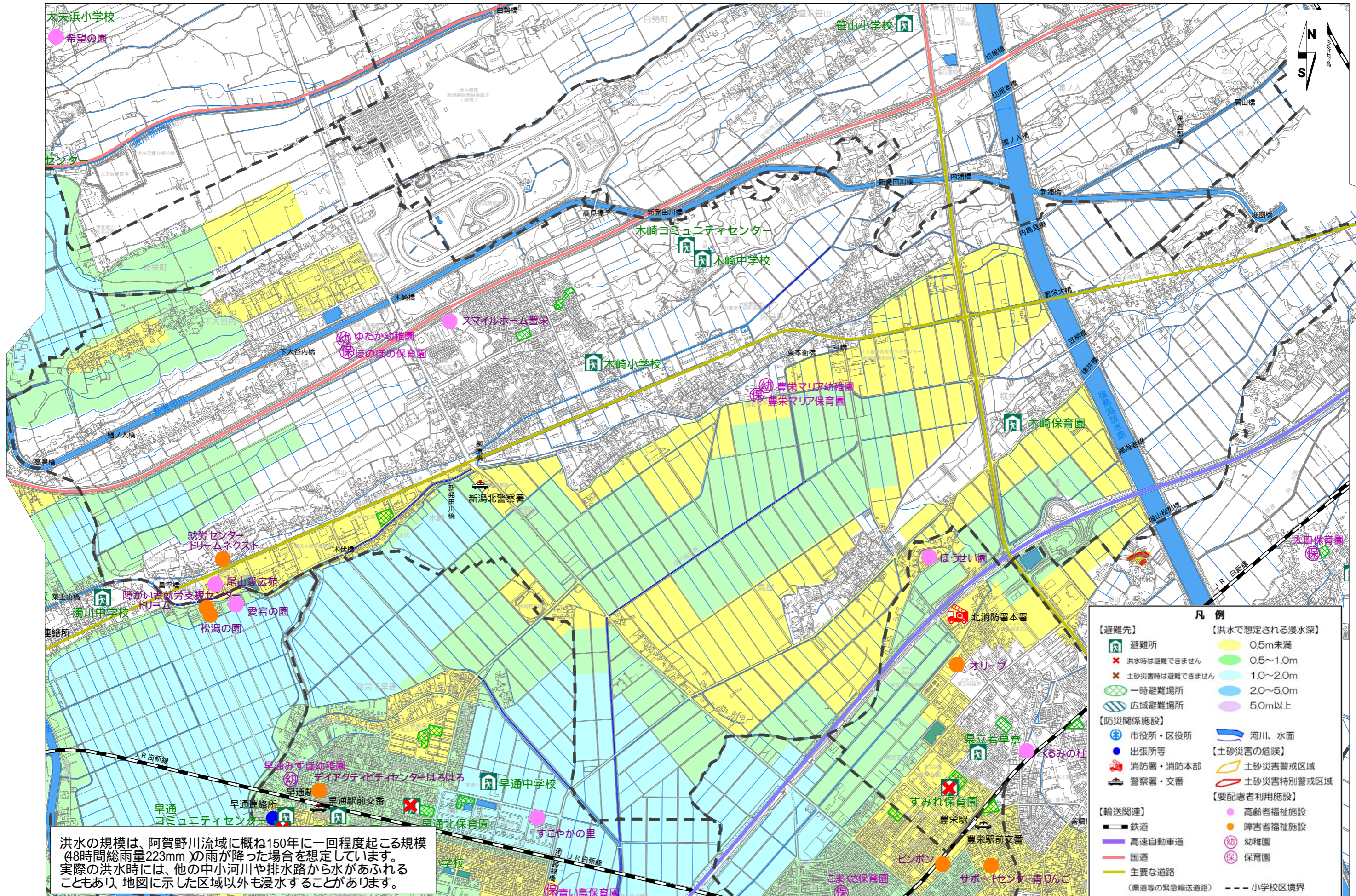
【避難先】	【輸送関連】
避難所	鉄道
一時避難場所	高速自動車道
広域避難場所	国道
津波避難ビル	主要な道路 (県道等の緊急輸送道路)
津波避難場所	
【防災関係施設】	【要配慮者利用施設】
市役所・区役所	高齢者福祉施設
出張所等	障害者福祉施設
消防署・消防本部	幼稚園
警察署・交番	保育園
	小学校区境界

[出典] 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



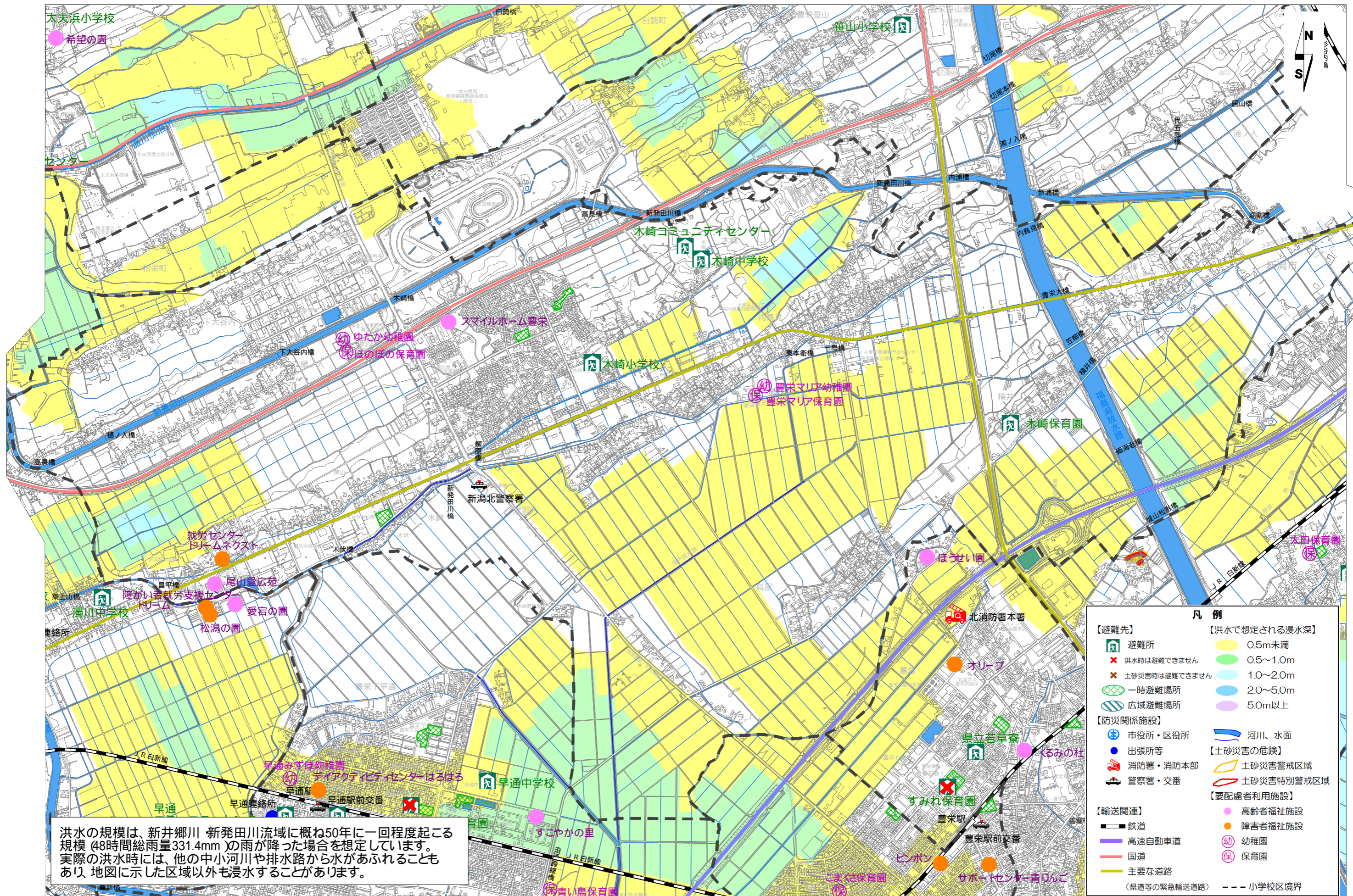
様式6-1 風水害(洪水・土砂災害)対策地図(阿賀野川)

木崎小学校区



[出典] 基盤の地図(平成20年,平成25年,平成26年)
阿賀野川浸水想定区域(国土交通省,平成14年1月31日)

0 500 1,000 1,500 2,000m



洪水の規模は、新井郷川 新発田川流域に概ね50年に一回程度起こる規模（48時間総雨量331.4mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）
 新井郷川 新井郷川分水路 福島潟 福島潟放水路及び派川加治川浸水想定区域（新潟県、平成16年6月23日）

